

# みやけの風

## 第 197 号

平成16年(2004年)11月6日(土)発行  
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
 発行責任者：上原 泰男  
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
 東京ボランティア・市民活動センター 気付  
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

失礼ながら東京の暮らしが良いとは少しも思いません。やっぱり島が好きです。ですが、帰島手順説明会のお知らせが届き、事業者の帰島開始を告げる新聞を見るとなんだか随分とせかされているようでストレスがたまります。いろいろあって、帰島について決めきれていないご家族は決して少なくないと思います。最後は自分で決めなければなりません、ふれあい集会で島のみんなに会って、「どうするの?」と聞いてみたい気持ちで一杯です。

新潟ではまだ余震が続き、5万人が避難所です。全村避難になった山古志村の人たちのことが気になります。なるべく一緒に避難生活が送れるようにと願います。

### みんなの声

#### 新潟地震に思う そして帰島

10月23日、突然起こった新潟県中越地震。大きな被害の中で次々起こる余震に、不安と恐怖に襲われていることを思うと、テレビを見ている私までが恐怖で身が震える。

平成12年の地震と噴火のなかで過ごした日々を思う。今度こそ天井が落ちてくるのではないかと思うほどの地震に不安と恐怖を襲われた日々だった。

新潟県の方たちは、そんな恐ろしさのほかに、寒さと空腹そして大切な人との別れ、私たちが経験してきた以上の辛さに耐えているんだと思うと、涙が止まらない。家にいると、被災地の方たちのことが気になって、テレビを見てもなにも手につかない。

一日も早く、あの不安な思いから開放させてあげたいと祈っている。おそらく三宅島のみんなの願いだと思う。

そんな中、私たちは帰島に向けて準備を始めている。そして、「いよいよだなー」と実感もしている。でも、

・滞在帰宅をする度に、木々が枯れていくの

を見ると不安になる。

- ・住まいについても、帰る度に手入れが必要な箇所が増えている。
- ・帰島後手入れをしても、ガスによる被害がいつくるのではないかとなど思う。
- ・帰島に向けて頑張ってくれている人たちの姿を見ると、自分の都合ばかり言えないが、避難当初、変えるときはみんな一緒に聞かされていたのに、自己責任での帰島となったことは寂しい。
- ・「一日千秋」の思いで帰島を待ちながらも、一人では抱えきれないことがそれぞれにあるのではないかと

などと、いろいろのことも心をよぎる。

昭和58年の噴火で、わが家が溶岩流の下に埋まった経験のある私としては、泥流に流されたり、高濃度のガスで立ち入り区域となり、住まいをなくした人たちのことを思うと、「帰島、帰島」と勇み足になっていては、申し訳ないという思いが、胸を締め付けている。

(八王子市 阿古 鈴木則子)

## 第9回 三宅島島民ふれあい集会 島民実行委員会のご報告

11月3日(水・文化の日)、田町芝浦小学校前にある連合東京会議室にて、11月28日に開催される、『第9回三宅島島民ふれあい集会』の島民実行委員会を行いました。祝日にもかかわらず、事務局を除く10名の島民の方々が、集まって熱い想いを寄せ合いました。その内容を、ダイジェストでお伝えします。この他にも、何かアイデアがありましたら、お気軽に事務局までお知らせくださいませ。

## 三宅島島民ふれあい集会実行委員会事務局

三宅島災害・東京ボランティア支援センター TEL: 03-3260-7573

上原事務局長(三宅島支援東京センター)が、まず、「『帰島』『どうしよう?』『見合わせる…』とさまざまな条件、さまざまな想いが会場で混在する集会になると思われるけれど、みんなで楽しく過ごせるよう、また、意義のある集会になることを願います。」と挨拶。前回に出されていた意見を下に、すこし具体的な意見を出し合いました。

### ステージに込めるメッセージ

この4年間に学校によせられた千羽鶴は全部で30本ほどある。

ステージに飾ることは可能だが、輸送の手段については、算段が必要

大漁旗を飾るのも、三宅島らしさ盛り上げるのによいアイテム

漁協浅沼さんを通じて、下田にいる漁師さんから借りられるか問合せ中

### 「ありがとう」のアーチの設営

土台を業者に依頼、飾り付け・メッセージは島民ではどうだろう?

飾りを前もって、各地区の有志や高齢者支援センターなどで作り、持ち寄って飾り

付けたら? そうすれば、前日、参加できない遠くの人でも会場準備に参加できる。

ベースの原案を事務局で業者と相談して作り、各パーツを振り分けて分担できないか、各地域に聞いてみる

### 「ありがとう」の気持ちを伝えるプログラム

何かを手渡すセレモニー

島民から 何を だれに 手渡す

支援を代表して三宅島支援東京センターが適当か

各地域から何人かが「ありがとう」のメッセージを読み上げる。

(人選は老若男女バランスよく)

港区有志では手作りの貝細工を当日ボランティアへ配る

- ・小学生の群読は、練習が出来ないため難しいが手紙を読み上げるなら、OK

中学・高校へは教育長を通じたほうが声かけやすい。

事務局からは声をかけにくいので、実行委員会の意向を受け島民が声かけ

いままでの支援に応えるべく、関係者を招待 事務局で招待状を発送

### 全住民避難になっている新潟の山古志村への応援メッセージ

今月の下旬くらいなら、先方の受入の体制が整う?

会場で応援の寄せ書き、手紙、カンパ募金(三宅島島民連絡会で呼びかけ)

### ステージの司会者について

女性: 宮下 加奈 さん(江戸川区) / 男性: 早川 信 さん(三宅島社協)

### 役場のプログラム

年金・保険相談窓口は従来どおり、外のテントで

引越し関係(村民課) / 住宅(都住宅局) / 生活相談窓口・総合相談窓口

/ 住宅金融公庫 / 被災者再建支援法などの相談窓口を設置の予定

今後、事務局で村役場と調整、「みやけの風」や「15日付け広報同封のチラシ」などで、内容を前もって周知、より多くの方が利用しやすいように。